



泊野在住
日高美由貴さん 15歳

我が家から中学校までの道のりは約11kmあります。私は、登下校にバスを利用しています。バスの乗客のほとんどが中学生とお年寄りの方々です。私たちにとって路線バスは、なくてはならない交通手段です。



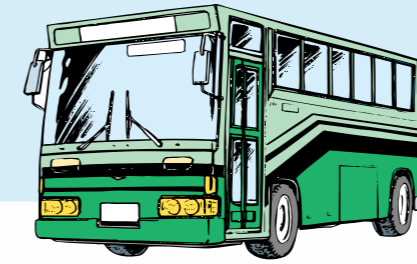
久富木在住
中野ヒサ子さん 82歳

家族はそれぞれ車を持っていますが、昼間は仕事に出かけます。私にとって、昼間の通院や買い物にバスは欠かせません。運転手さんも親切で、安心して利用しています。バスが通るので、本当に有り難いことです。



柘野在住
木場郁哉さん 13歳

毎朝、バスで中学校に通っています。家の近くのバス停まで来てくれるので、ゆっくりとバスに乗ることが出来ます。帰りは、部活があるので、お母さんに迎えに来てもらいます。帰りのバスもあればうれしいです。



■第一停留所 生活路線。

地域を走るバスは、
私たちにとって大切なライフライン



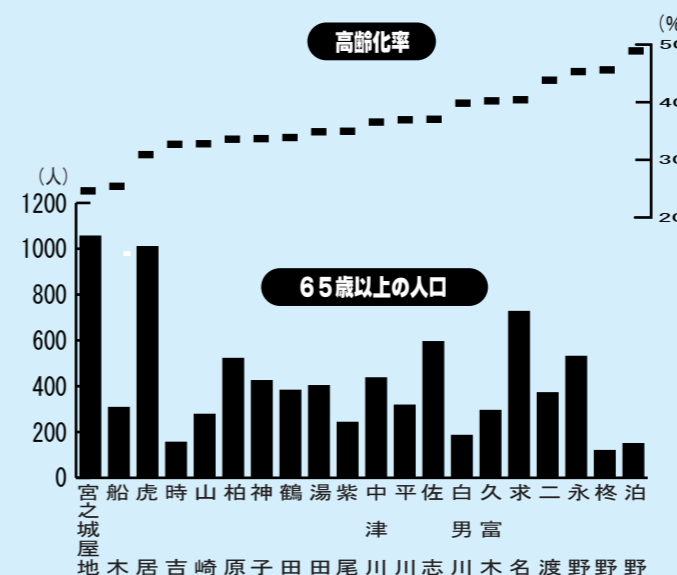
永野在住
山中チエ子さん 78歳

「バスのおかげで、ここに来ることが出来ます」と話してくださいるのは、永野在住の山中チエ子さん（78歳）です。山中さんは、免許を持たない一人暮らしの高齢者です。定期検診と薬をもらうため、バスを利用して病院へ通っています。生活に必要な食料品や生活用品を買いに出るときもバスは欠かせません。

バスが来なくなったら、引きこもりになっていたかもしれません」と話します。
家から離れた停留所まで、足を痛そうにしながらも歩いていく高齢者も多く見かけるそうです。
山中さんのように、市街地郊外には、免許を持たない、車を運転できない多くの高齢者が暮らしています。バスは、そうした高齢者にとって欠かせない存在であり、ライフラインとなっています。

山中さんは「バスが家の近くまで来てくれるので、病院や買い物に行ったり、友達と温泉にかけたりできます。本当にありがたいです。もし、

■公民館毎65歳以上人口と高齢化率 平成20年4月1日現在 企画広報課調べ



平川在住
有川和子さん 44歳

中学3年生と1年生をバスで登校させています。学校までは遠いので、毎日、送り迎えをすると親にとっては大変です。1年生は、部活動があるので、部活後の帰宅時間に合わせたバスの便があれば助かります。



紫尾在住
大園美智男さん 71歳

補助を受けながら赤字で空バスを走らせることは疑問に思います。しかし、町内にはバスを必要とする方もいますので、利用者に応じた便数や時刻を検討するか、バスに代わる交通の確保を考えていく必要があると思います。



求名在住
東郷フチさん 84歳

ひとり暮らしのため、病院や買い物に出かけるときにバスを利用しています。病院の診察は午前中で終わり、帰りの便まで時間がだいぶ空くので、帰りはタクシーです。帰りのバスのいい時間の便があればうれしいです。